

八月のテーマ

万人幸福の葉



え・城谷俊也

# 純粹倫理は 実行から入る

『方』 人幸福の葉』は実践の書物です。実行によって直ちに

正しさが証明できる生活の法則が書かれています。

「中には常識をかけたはなれた耳新しいこともあり、表わしにくいために、たとえをもつてしたのもあります。すべて無条件に、このまま実行していただきたい」(十頁)

実行すると、そこには必ず新しい結果が現われ、思いもよらぬ幸福な環境が開けると記されています。信じるか信じないかではなく、やってみればそれだけわかるという学び方が書かれてあるのです。

さて、読み進めればすぐにわかることですが、本書には、実行しやすいガイドとして、古人の金言や他の書物からの引用が次々と登場します。

たとえば『聖書』からの引用もいくつか紹介されています。次のような言葉です。

「門を叩け、さらば開かれん。」「狭き門より入れ。滅ほろびにいたる門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命いのちにいたる門は狭く、その路

は細く、之を見出すもの少なし。」(三十頁)

「おのれの如く汝の隣を愛すべし。」「仇を愛し汝等を責むる者のために祈れ。」(六十三頁)

いかがでしょうか。抽象的な言葉を日常の様々な場面にあてはめれば、少しの勇気で実行できそうなことばかりではないでしょうか。

一方、引用文以外にも、ゴチック体(ゴシック体)で表記された文言が多くの箇条に存在することに気づきます。

『気づくと同時に行なう』の部分の強調を意味する太字のゴチック体は、著者が印刷するように指定しました。第一条では「こだけがゴチック体です。すなわちこの第一条でもっとも訴えたかったのが『気づくと同時に行なう』であったと見なければなりません」

『ひとすじのみち』丸山敏秋著次に記す文言もゴチック体です。「人を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変わるよ」(四十一頁)

「うまく行かぬから、望みを失うの

ではない。望みをなくするから、崩れて行くのである」(百頁)

本書の最後、百六十頁にもゴチック体の文言が出てきます。「片手をあげて額ひたいにあてた」

二十二ページに及ぶ第三部「死は生なり」の中で、ただ一カ所ゴチック体になっている文言です。これは一九四七年、イギリスの植民地支配にあったインドを独立に導き、「独立の父」と呼ばれたマハトマ・ガンジーのエピソードとして取り上げられています。ガンジーは、自分をピストルで打ち抜いた青年に対し、瞬間、ヒンズー教徒が相手に許しを与えるしぐさをとつたといわれています。

これは常人ではとてもできることではないでしょう。しかし、會員心得として、「人を愛して争わず、互いの繁栄をねがいます」と宣言する我々にとって目指したい心境でもあります。

本書にはガンジーの言葉も一カ所引用されています。

「愛は悪に対する唯一の武器である。」(六十四頁)